

議事録	議長	副議長	議員	事務局	その他

鹿屋市議会議長  
花牟礼 薫 様

和5年 3月 1日



鹿屋市議会議員 川崎 勝



令和4年度鹿屋市議会政務活動費収支報告書

鹿屋市議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項の規定に基づき、下記のとおり、関係書類を添えて報告します。

記

1 収入

政務活動費 220,000円

2 支出

69,440円

(単位：円)

項目	金額	備考
調査研究費	69,440	10月9日 全国和牛能力共進会・霧島市 4,000円 11月7日～11月9日 福島市・東京都 65,440円
研修費		
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
人件費		
事務所費		
計	69,440	

※備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

3 残額 150,560円

領 収 証

川崎 勝 様

令和4年 10 月 9 日

★ ￥ 4,000

但 全国和牛能力共進会借上バス負担金  
上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額

消費税額等(%)

鹿児島県肝属郡肝付町富山405-2

有限会社 高山三幸観光

代表取締役 濱 松 正

電話0994(65)0000

コケヨ ウケ-1048

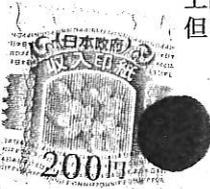
領 収 証

鹿屋市市議会議員  
川崎 勝 様

No. \_\_\_\_\_  
2022 年 10 月 11 日

金 額  
¥ 65,440

上記の金額正に領収いたしました  
但し 11/7~11/9 石形修費用



有限会社 旅くらぶ21

代表取締役 池田 幸

〒893-0013 鹿児島県鹿屋市村

サムシ

TEL(0994)41-7248

FAX(0994)41-7248

# 調査研究報告書

## 1 調査実施日

No.1

- ① \* 令和4年10月9日(日)  
② \* 令和4年11月7日(月)～11月9日(水)

## 2 出席者

- ① \* 市来・今村・梶原・安田・田辺・時吉・泊・永山・西菌・花牟礼・東・本田・米川崎  
② \* 東・岡元・原田・時吉・本田・松野・田辺・川崎・梶原<sup>下本地・泊</sup>(県外)

## 3 調査場所・調査事項

- ① (1) 第12回 全国和牛能力共進会 鹿児島大会(霧島市牧園町)  
② (2) 福島県浪江町  
「水素製造事業について」  
③ (3) 東京都千代田区(経済産業省:資源エネルギー庁)  
「水素政策セミナー」

## 4 調査報告

### (1) 全国和牛能力共進会について

#### 【共進会の概要】

全国和牛能力共進会は全国和牛登録協会が主催して5年に1度、全国持ち回りで開催される全国規模の和牛の品評会。通称:全共・別名:和牛のオリンピック

#### 【事業の概要】

令和4年10月6日から10日にかけて、全国の和牛王座を決定する『第12回全国和牛能力共進会』が鹿児島県で開催された。

#### 【取組状況】

本県では、前回の大会から5年間、『和牛日本一』を獲得するため一致団結して『チーム鹿児島』を掲げ、生産者や全国登録協会、JAグループ、市町村、各高校などの関係者で取り組んで来た。

#### 【事業の成果】

本県は、県内各地から予選を勝ち抜いた24頭を出品し、前9部門のうち、6部門で1位(農林水産大臣賞)となり、また、『種牛の部』の『第4区(繁殖雌牛群)』では(内閣総理大臣賞)を受賞するなど、まさに『和牛日本一』の栄冠に輝き、さらに『肉牛の部』では、最優秀枝肉賞も受賞した。

#### 【事業の課題】

この機会を逃がすことなく、『和牛日本一』を前面に国内外にアピールが必要。

【まとめ】全共に協力して頂いた全ての関係者の方々に心より感謝いたします。

## (2) 福島県浪江町 水素製造事業について

### 【浪江町の概要】

福島県浪江町は福島県浜通り（沿岸部）の北部に位置し、双葉郡に属します。明治22年の町村制により誕生した波江村は、明治33年浪江町となり昭和31年5月1日に大堀村・苧野村・津島村と合併して、現在の浪江町が誕生した。

### 【事業の概要】

福島県浪江町は世界最大と言われている水素製造施設があり、そこは元々東北電力が波江・小高原原子力発電所建設の予定地だったが、東日本大震災で東京電力の福島第一原発事故の発生以降、誘致決議を白紙撤回した場所であり、敷地面積は22ヘクタールのうち、18ヘクタールに水素を製造する為の太陽光発電パネルが設置されていました。

### 【取組状況】

福島県浪江町は再生可能エネルギーの先駆けの地として浪江町の水素で産業活性化を図り、既に相当量の水素を製造して更に規模を拡大して世界に向けて販売して行く状況を造り出そうとしていた。

### 【事業の成果】

経済産業省のカーボンニュートラル時代における水素政策の今後の方向性に合致した取組みは既に成果を上げている事になるだろう。

### 【事業の課題】

今後は浪江町での水素製造技術の成功事例を基に全国に条件のあった場所を選定して日本の技術として世界にアピールして行く事が課題であると考えます。

### 【まとめ】

鹿屋市においても『ゼロカーボンシティかのや』を目指している以上、早期に水素製造技術を研究し具体的な方向性を検討する必要があると思います。

### (3) 東京都千代田区：経済産業省：資源エネルギー庁

#### 【新エネルギーシステム課の課長によるプレゼン】

2020年10月26日に当時の総理が所信表明演説において、我が国が2050年にカーボンニュートラルを目指すことを宣言された事から課長のプレゼンが始まった。やはり国の方針としては脱原発と二酸化炭素の排出量を減らす事が大きな課題である事からクリーンエネルギーの様々な研究が進められて来ている、主に太陽光発電、風力発電、地熱発電だが、今後は太陽光発電システムによる水素製造が主流になってくるが、電気分解による水素製造はコスト面でまだまだ課題があるとの事だった。

#### 【まとめ】

最後の質疑応答で課長に質問したのが、電気分解での水素製造はコストが高いのであれば、光触媒による分解は考えられないか？質問したら、回答は今の技術では光触媒作用による水の分解は電気分解からすると、かなり効率が悪い、何故ならば光触媒はウイルスや臭い、などの軽い有機物の分解には優れているが水などの大量の分解は今のところ厳しい、但し今後の研究次第では可能性は、かなり高いとの回答だった。

今回 初めての政務活動だったが、得るものが多く今後に向けて活かして行ければと思います。この企画を計画された方々や一緒に同行された議員の方々には敬意を表し心から感謝申し上げます。